

啐啄

平成26年7月1日発行
 編集・発行 大島町教育委員会
 教育文化課事務局
 TEL04992-2-1453
 題字「井島 吉春」

大島の子供たちに思う

教育委員長 白井 良平

いつだったか、中学2年生との話の中で次のようなものがありました。
 「今、数学では何を習ってるの？」 「二次方程式です。」
 「わかる？」 「まあ、どうにか…。」
 「これは大人になってから使うと思う？」 「わかりません。」
 「そうだよね。私の経験では、社会に出てからこの方程式を使ったことは一度もないし、使っている人を見たこともないよ。」 「…？」
 『それなのに、どうしてこんな勉強をしなければならないんだろう…？』
 と考えたことはありませんか？



改修後の三中プール

同じことを、子供に質問されて困ったことはないでしょうか？ 自分が中学生だった頃に、先生から問われて「その答えを出すために勉強するのは。」と返事をした友だちがいましたが、当時の私には「??？」でした。

さて、ここでは勉強の意味を論じたいわけではありません。

恥ずかしながら、最近になってすごく気になり、どうにかできないかと考えることが少なくないので、その一部を紹介したいのです。

学校で行われる学習は、ある程度の集団（小・中学校の1クラスは最大40人まで）で授業を受ける場合が多いのですが、どの授業においても理解がついていけなかったり、不得意な児童・生徒がいるはずですが、先生方はそういう子供を一人でも減らすために日夜奮闘しているわけですが、義務教育の学校では「全員に理解させたり、技術を身につけさせたりするのは無理」です。なぜなら、能力の高低や家庭環境の差異などには関係なく、全ての子供たちが学ぶ場であるからです。そしてそれが社会の縮図ですから、学習以外で学ぶことも沢山あり、決して悪いことだとは思いません。ただ、小学校でいえば1単位時間が45分、中学校でいえば50分の授業で、「分からない子はどんな気持ちで授業を受けているのだろう。また、運動が苦手の子が鉄棒や跳び箱をやったり、音程を取れない子に歌を強要したりすることが、何の役に立つのだろう。」「その時間を別のことに使えたら…」と気になるのです。

自分が小学生だった頃には、勉強はまるっきりでもメジロを捕ったり、ベーゴマを回したりすることには天才的ともいえる能力を発揮する子や、月曜日の朝にイタチの首に縄を巻いてペット代わりに連れてくる子、夏になると突きん棒や貝採り名人などが活躍し、冬は山芋掘りの達人な仲間がいて、「勉強ができなくても、自分の長所を生かして大きな存在となっている」例が沢山ありました。また、勉強や運動、芸術といったことに優れた子には一目置きながらも、「それがどうした。オレにはオレの道があるさ。」といった逞しい開き直りを見せる友だちもいました。

時代が変わった今では非現実的な話かも知れませんが、私が言いたいのは、昔と同じことをやらせようというのではなく、「現在の学校や社会の中で、集団の中に埋もれている子供達にスポットを当てて自信をもたせるためには、何が必要なのか？」を考えたいということです。勉強・運動・芸術などの能力をもつ子供たちには、それを伸ばすための場と時間を与え、さらにそれらの力があっても、美しい心が伴わなければ意味がないことを知らせる。

残念ながらそれらの能力が少ない子供たちには、できる範囲で個別指導の時間を増やして基礎・基本を身につけさせ、自分の得意なことを見つけるための支援をするとともに、美しい心をもっていれば楽しい将来に結びつけられることを知らせる。特別支援教育の充実も含めて、全ての子供たちの将来を明るくものにするため、これからも教育委員会にできることを確実に進めていきたいと思えます。

学級というチーム

教育委員長職務代理者 井島 吉春

世の中にはいろいろな役割、役職、役目があり、各人がその任務をしっかりと果たした時ものごとは良い方向にすすむ。

会社などでは、社長、部長、課長、係長などピラミッド型に立場や責任の違いもあるが、おおむね組織としてはこのようになっている。

野球ではレギュラーとして九人いて、各ポジションはある意味専門職的な技術を必要とするが、その他監督、コーチ、控え選手等すべてとても重要な役割がある。

社長には社長の仕事があり、ピッチャーにはピッチャーの役目がある。あたり前といえばあたり前のことだが、あたり前でない時に歯車が狂う。

いつも野球の話になって申し訳ないが、ピッチャーで四番でキャプテンの者を九人集めてもチームにはならない。無理やり各ポジションにつかせても役目がわかっていなければ野球にならない。自分はどうしてもピッチャーをやりたいが肩が弱くコントロールも良くない場合は、自分にどんなポジションが合っているか他者の意見を聞くなりチームの為に考え直した方がよい。

自分はどうしても外野を守りたい。バックホームでランナーを刺すのが最高に気持ちが良いと考えていたとしても、まわりから肩が強いのでピッチャーをやれと言われたら、どんなに嫌だと思っても、チームの為に考えるべきだ。

自分は出来れば試合に出たくない。ベンチで応援する方が気楽でいいやと思っても、他者から能力を認められ期待されたならば、チームの為にがんばってほしい。

各ポジションは、悲しいかな自分の意向とは別に向き不向きがあり、全て重要なポストなのだ。ポジションには上下は無く各人がチームとして、どうしたら最良なのかを考えられる時、そのチームは一つにまとまるし、チームワークも良くなる。

子ども達は必ず義務教育として小中学校で教育を受ける。九年間基本的に学級（クラス）というチーム、集団でほとんど過ごす。縁あってクラスの仲間となり、友人や親友も出来たりするが、そこにはいろいろな子どもがいるからこそ集団で学ぶ意味がある。この学級という集団の中でもいろいろな役目が必要で、学級委員などの肩書の役員以外にクラスの機能としての役目も必要だ。

元気で活発な子、とてもおとなしい子、よく発言する子、皆をまとめる子、反対意見を言う子、話をじっくり聞く子などいろいろな子がいて、クラスという小さな社会の中で泣いたり笑ったりけんかをしたり、苦楽を共にしながら自分や他者の存在の尊さを学んでゆく。

人がこの世の中で生きてゆくには自分一人ではどうすることも出来ず、必ず人と関わってゆかねばならない。その時自分には何が出来るか、何をすべきか、他者はどう思っているのかなどを考え、又自分とは違ったものの見方、考え方の人達をお互い認め合い、支え合い、共生共存の心を中学を卒業するまでに培えないものか。

島中の学校で、十年、二十年、三十年後のクラス会が楽しみになるような、そんなクラスが出来ればと願っている。

オーストラリアへの旅を振り返り

教育委員 藤田 月

昨秋、三男がシドニーに留学していたこともあり、オーストラリアに行く機会がありました。27年ぶりにパスポートを再取得し、現地の観光ガイド本又、この機会に英会話の勉強もしようと思い本も揃えたのに全くできずに当日をむかえてしまいました。

私と二男、私の友人と息子の4人で夜の8時過ぎの飛行機で成田空港をシドニーに向け出発しました。

機内ではエコノミークラスということもあり、当然座席は狭くしかもこの状態で8時間も乗っていなければならないことを考えると、旅の楽しさと苦痛とで複雑な気持ち（帰りのことも考えると）でした。

やはり殆んど睡眠もとれないまま赤道を横切る羽目となりました。

シドニー空港には、朝の6時過ぎに着き南半球であるため日本とは半年気候の違いがあり、初夏という季節しかもサマータイムの導入もあり本来、日本との時差は1時間なのにこの季節は2時間のずれ（オーストラリアの方が早い）空港での入国審査が厳しく1時間以上も列を組んで待たなければいけません。三男とは宿泊先のホテルで待ち合わせし合流となりました。



オペラハウス

初日はホテルからシドニー市内を散策しようということで、シドニーハーバーの先端オペラハウスを目指して歩きました。なんとアジア系の人の多さにはびっくり、特に中国の人が目立ちました。生粋のオーストラリア人（先住民ではなく）は少なくなってきたとのこと。

ホテルまで帰るのに市営の無料バスが運行しているとのことでしたが、30分以上待ってもバスはこず、結局電車を利用することになり2階建ての綺麗な車両に乗ることができました。

2日目、3日目は、世界遺産で有名なエアーズロック。

ここはオーストラリアのほぼ中央にありシドニーからは飛行機で3時間程かかる位置なので近くのホテル（ロッジ）に泊まり、2日間かけないと山のサンセット、サンライズが体験できないところ。ガイドがいろいろ説明してくれたのに英語の勉強不足で殆んど理解できず、三男の通訳に頼るしかなく4人とも何と情けないことか。英語が通じることで世界観が全く違うことを痛切に感じさせられてしまいました。

4日目は、シドニーの西、車で2時間かかるやはり世界遺産登録のブルーマウンテン。ここは日本の清涼飲料のCMでも使われた凄絶な絶景のあるところ。

クリスという名の日本語の流暢な現地のガイドの運転で、朝早く出発シタ方帰ってくるというコース。

他にも3人の日本人が同乗し楽しいドライブとなりました。

この日の夜、シドニーを発ち翌朝、日本に帰国という日程でした。帰りの飛行機は、旅の疲れもありグッスリと眠ることができました。オーストラリアは日本の約20倍の国土をもち、まさにゆったりとした広大な自然の中で治安もいい国でありました。

ただ、2000年のシドニーオリンピック以来物価上昇が激しく、物によっては日本の2倍から3倍の商品もあり旅行者にとってはちょっとお金がかかる国でした。現地の人の労働賃金は高く、私の三男もバイトだけで収入を得て生活費は、自分で何とかできたようです。

イギリス文化が残っており、主食はパイ、ピザ等が多く米が恋しくなった旅行となりました。



エアーズロック

帰国して思ったことは、たくさんの国際問題や2020年東京オリンピックに向け国際化の中に置かれた子どもたちがのみ込まれてしまわぬ様な教育の重要性と世界でも好まれている日本食を日々味わえる事への感謝でした。

あれから8ヵ月を経て

教育委員 岡山 日出子

大島を彩っていた椿、桜、つつじから紫陽花の美しい季節となりました。春、すべての小・中学校で無事卒業生を送り、新一年生を迎えられたこと本当に喜ばしいと感じました。台風災害から8か月、被災した児童・生徒だけでなく多くの子どもたちや家族が様々なことを乗り越えながら過ごしてきた時間だと思えます。

今も仮設住宅や仮住まいで生活している現状はまだまだ復興には遠いということに他ならないのですが、当時に比べれば道が整備され、瓦礫が撤去されていきました。大部分の人の生活も落ち着きを取り戻しつつあるように見えます。

しかし三原山の崩れた山肌を見るたびに今も台風後の惨状や恐怖、落胆を思い出す、という話を聞きます。大切な人や物を失った人の心の復興には時間の他に何が有効なのでしょう。

子どもの教育に思う事 (其の三)

教育長 石川 龍治

子どもの教育にとって、地域の力が大切でとても重要であることは、多くの人が同感であると思えます。大島町の教育目標にも有るように、「すべての町民が教育に参加する」との認識に立ち、地域と学校と家庭が連携し、どのように取り組むかを考えねばなりません。

そのためにはどうするか、子どもたちにどのような大人になって欲しいのかを先ず掲げたいと思えます。次に、そのために周りはどう取り組むかです。その取り組みを、地域を挙げて、町を挙げて取り組むことだと考えます。

たとえば、規範意識の高い人。私たちのごくごく日常の生活の中で、それを子どもが身に着けるチャンスは沢山あると言えます。

他人の子どもでも、規律を破れば注意し、是正することを指導する。それが、地域の子どもの大人が見守り育てることになります。近頃、子どもを叱る大人が少なくなったと聞きます。余計な事には関わらない、おせっかいはしないという、いわゆる傍観者の身置き方をする人が多いそうです。こんな話を聞いたことがありますか、「突然具合が悪くなって倒れた人の傍を何人もの人が通り過ぎるのに、声をかける人がなかなか現れない。」これは、自分がやらなくても誰かがやるだろう。面倒には関わりたくない。そんな心理状態の表れなのかもしれません。もっと身近な地域の子どもの場合、注意の必要な行為をしていた場合、それを見た大人が、その判断において、危険だから駄目なのか、悪いから駄目なのか示して注意する必要があると思えます。

人が見て居る時はルールを守るが、人の見ていない所ではルールを破る。車の不法投棄、家電製品の不法投棄、清涼飲料水の容器のポイ捨て、分別ごみ回収ボックスの使い方等々。数えるときりがないほどのゴミに関する不道德な行いが起きています。こういうことは、地域の大人としては厳に慎むべき事です。見かけたら注意するなり通報するなりの行動が必要だと思えます。そしてその行動を子どもに見せたいものです。

たとえば、故郷に誇りを持った人。そのためにはわが故郷の事をたくさん知っていることが大事だと思うのです。

地域の行事や季節を通した自然の事、ジオパークに代表される大島の事、更には数々の史跡・遺跡から分かる事。大島ゆかりの文人墨客の中にも大変有名な方が沢山います(藤井工房のHP参照)。そういった、地域が潜在的に持ち合わせたものを知る事は故郷の持つ自慢できることを知ることにもなると思うのです。日々の生活の中で、教えられる部分と、そうではない部分の使い分けは当然必要になります。島の良いところを地域を挙げて伝承してゆく作業にその機会があると思えます。夢や目標の発見への行程にこの体験が繋がると考えられます。

いろいろな要素の中から、いくつかを選び体験する中で、地域の大人から、特に沢山の経験と生き抜いた時間の中に蓄積された老人と呼ばれる人たちの、記憶を受け継ぐ作業においてはその効果は大きなものがあると思えます。

大島の良いところは、自然がいっぱいあり空気もきれいで美味しいものがあり、更には歴史文化もある。こういった抽象的な表現は誰もが言うことができる代わりに、あまり心に残らないのではないのでしょうか。その自然

の中にどんな動植物があってその特徴が、どのようなものであるのか。山には山の動植物、海には海の動植物、その色、匂い形から手触りや、更には食べられるか食べられないか、そして食べられるとしたらどんな味がするのか。体験を通して得た知識は、説得力を持ちます、故郷を語るときは説得力のある説明をして欲しいものです。

たとえば泉津地区に伝わる伝説「日忌様」。知らない人はいないくらいによく知られた物語であります。7年の歳月をかけ、昭和62年に「ひいみさま」という36場面からなる、版画集としてまとめられました。当初は「自分たちの郷土、泉津に命を賭して泉津を守った先祖がいたことを知り、先祖への感謝と郷土への愛と誇りを育てる。」ことを目指して、泉津小学校の卒業記念製作として着手したということです。製作に当たり、地域内外から多くの協力を得て完成されたこと、子どもたちが郷土を愛し誇りに思う一助になったであろうことがあとがきから読み取れます。

たとえば下高洞遺跡の貝塚。「オオツタノハ」という大変希少な貝（九州では屋久島・種子島。伊豆諸島では三宅島が北限）の腕輪の加工所だったようです。縄文時代後期から弥生時代にかけておそらく、三宅島や御蔵・八丈から貝を運び加工していたのでしょう。やがて北は北海道まで流通して発見されています。全国5000点

の腕輪の内200点がこのオオツタノハ製貝輪であることから、とても貴重な装飾品で有ったろうと思います。大島でつくられた貝輪が貴重品として数百年かけて北海道にまで渡ったと想像すると何ともロマンに溢れた歴史です。たとえば礼儀。たとえば道徳心。たとえば人への迷惑。たとえば子育て。たとえば親切。たとえば助け合い。たとえば夢。子どもたちに地域として伝え育てていけたらと願っています。

「子どもの教育に思うこと」家庭教育・学校教育・地域教育について思いを述べさせていただきました。今後その実践を目指します。（完）



教育委員会カレンダー（8月～12月）

月	日	内 容
8	5	大島町体育祭水泳大会
	20	多摩・島しょ子ども体験塾 島しょブロック（8月20日～23日）
	31	島町体育祭野球大会（一般の部）開始（8月31日～9月末（予））
10	12	大島町体育祭体育レクリエーション大会（予備日 10月19日）
	25	東京文化財ウィーク2014企画事業 大島の遺跡展（10月25日～11月3日）
11	2	大島町体育祭駅伝競走大会
	8	島しょ芸術文化振興事業「寄席公演」
12	26	雪国体験学習会（12月26日～12月29日）

事務局からのお知らせ

学校教育係	社会教育係
<p>☆小中学校空調設備等改修工事</p> <p>つばき小・第一、第二中学校は下記の工事を実施します。工事関係車両が出入りしますので、送迎、訪問は気をつけて来訪下さい。夏休み期間中は校舎の立ち入り制限等、ご迷惑をおかけしますので、ご協力をお願い致します。</p> <p>つばき小学校空調設備改修工事 工期 7～9 月末 第一中学校空調設備改修工事 工期 7～9 月末 第二中学校空調設備改修工事 工期 7～9 月末 第二中学校大規模改修工事（校舎外周り・3階部分） 工期 7～10 月末</p>	<p>☆工事のお知らせ</p> <p>○北の山公民館 駐車場アスファルトの舗装工事を行います。 工期 6～7 月末</p> <p>○弘法浜プール 台風被害により解体撤去工事を行います。 工期 6～7 月中旬</p>
給食センター係	図書館
<p>給食センターでは、平成27年4月を目途に学校給食の調理・配送等の一部を専門の業者へ業務委託する方向で準備を進めております。6月には調理等業務委託業者選定委員会設置要綱に基づき、教育長を委員長とし、小中学校各 PTA 代表・校長会長・給食主任代表など全11名の選定委員の委嘱を行い、6月17日に第1回目の調理等業務委託業者選定委員会を開催しました。今後のスケジュールとしては、各学校と業務内容等を調整した上で、仕様書を改善し委員会に諮り、9月頃より受託業者選定が、より具体的に動き出す予定です。</p>	<p>移動図書館車「ひまわり号」のボランティアを募集しています。内容については各地区で本の貸出し作業、ひまわり号の運転（普通免許で運転できます）、本の登録作業等です。第1～第4土曜日の午後に運行しています。半日ではなく少しの時間、30分、1時間でも構いません。興味がある方はひまわり号事務局（大島町図書館）までご連絡下さい。</p> <p>☎04992-2-2392（月曜休館日）</p>